

(2) 外国籍など児童・生徒への支援

👉 こんな実践

外国籍などの児童・生徒にとって、日常生活の日本語には支障を感じなくなっても、教科学習においてはつまずきを感じる場合があります。その児童・生徒の日本語力の実態に応じた支援で、通常学級での教科学習への橋渡しを進めた実践です。

実践学校 I 小学校（学級数：12 生徒数：318）

実践学年 5 学年

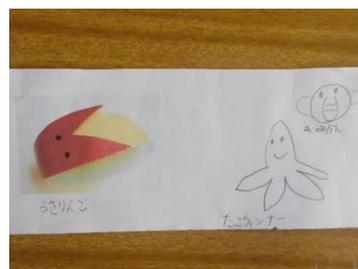
実践時期 7 月中旬

単元名 国語「見立てる」「生き物は円柱形」

○ 児童が説明文を理解し、まとめていくために、次の支援を行いました。

① 絵や具体物などの視覚的支援

本単元は、音読譜を使用しました。教材音読後、題名の「見立てる」という行為を理解するために、りんごの皮をうさぎの耳に見立ててむいた写真を示しました。S児は、すぐに「うさりんごだね。」と言いました。りんごをうさぎとして見るというイメージがわき、「見立てる」の意味が理解できたようで、すぐに「たこウインナー」と「ぞうみかん」の絵を描きました。



この「たこウインナー」と「ぞうみかん」がまさに「想像力を働かせて『見立てる』という行為」であることを、S児と教材に戻って確認しました。

② 絵や図を多用してまとめを行う支援

「生き物は円柱形」では、『見立てる』で学習したワークシートと同じ形式でまとめていこうとしましたが、長い文章に抵抗感を示しました。そこで、模造紙に絵を貼りながらまとめていく活動にしたところ、まとめることに意欲を示し、取り組み始めることができました。

自分でまとめた模造紙が学級に掲示され、友達から褒められ、うれしそうに喜んでいる姿があったことを担任から聞きました。

**ここがポイント！**

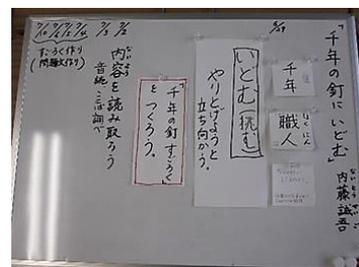
- 音読譜の活用や写真、絵を用いることで、日本語の意味を理解しやすくなることができます。
- 絵や図など視覚的な支援は内容理解だけではなく、まとめを行うときにも大きな助けになります。

実践学年 5 学年
 実践時期 9 月中旬
 単元名 国語「千年の釘にいとむ」

- 教材を読む目的を持たせ、長い文章への抵抗感をなくすために、次の支援を行いました。

① 読むことに目的意識をもたせる支援

長い文章に対して抵抗を感じるS児でしたが、本単元では、音読譜を使わないで読むことに挑戦しました。楽しみながら読む活動を継続できるよう「千年」「釘」「職人」等のキーワードとなる漢字を友達と探す活動を設定しました。友達と学べる楽しさもあって、S児は音読譜を用いなくても、読めない漢字には自らルビをふりながら、読み進めていく姿がありました。



② 読み取り学習の目的をもたせる支援

読んでわかったことを問題にした「千年の釘すごろく (写真1)」を作る活動を設定しました。

写真1

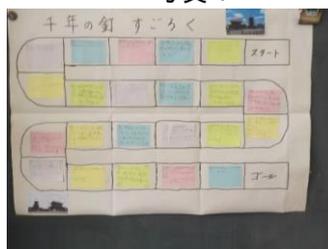
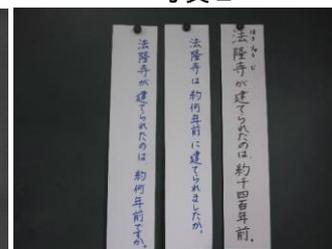


写真2



まず、「分かったことを短冊カード (写真2) にまとめ、それをもとに、友達と一緒に質問を考えました。

後日、作成したすごろくは、日本語教室で楽しんだほか、通常学級にも持っていき友達と楽しむ姿があったことを通常学級担任から聞きました。



ここがポイント!

通常学級で使用している教科書を用いて指導するときには、読むための目的を持たせ、学習意欲を継続させることが必要です。そのために、楽しみながら取り組める学習活動を設定したり、友と一緒に学習を進める場面を設定したりしましょう。

まとめ

個別の指導計画をもとに、その児童・生徒に合った支援をするために見通しをもって行うことが大切です。また、絵や具体物を使って内容理解やまとめに活用したり、意欲を引き出す活動を設定したりする支援を行いましょう。こうした支援は、日本語教室だけでなく、通常学級での教科指導に生かすことができます。